

前半 部内授業を終えて

「子どもが主体的に学ぶ姿」を求めて

5月2日で全27コマの予定されている部内授業うち、前半の13コマが終了しました。先生方は放課後「副校長先生ご指導をお願いします」と校長室へ来てくださるので、できるだけ自分が思ったことを率直に伝えるようにしています。これは「ご指導」ではなく、研究同人としての「意見」と受け止めて欲しいと自分では思っています。それでも、先生方と「教材」や「授業」について話す時間は楽しいものでついつい長話になってしまっていて反省しています。

さて、本校では「主体的に学ぶ姿を求めて」を協同研究のサブテーマに掲げているわけですが、まさにこの主題にぴったりの子どもの姿が見られた授業がありました。佐山先生の6年生音楽での三味線の演奏の試聴と演奏、黒田先生の2年生体育での「バク体操」、前田先生の4年生社会での動画での上杉交差点の事象提示、これらに取り組んでいる時の子どもたちの姿はまさに「主体的に学ぶ姿」であったのではないかと私は思います。林竹二氏が「(前略)ある教材を媒体にして子どもたちのもっている力を引き出す仕事、それが授業です。(後略)」とおっしゃっています。まさにその通りで、先生方が優れた「教材」を子どもの前に提示したとき、教科の違いに関わりなく「主体的に学ぶ子どもの姿」が見られました。

授業研究に関わっているとどうも最近その検討の視点が指導法に傾倒している印象があって、教材についての議論が圧倒的に少ないように思っています。先生方の授業を見て共通に感じたことは、先生方が教たいことを明確にもっているからこそ優れた教材が提示できて、それが子どもが主体的に学ぶ姿につながる、ということです。

一方、先生方の一人ひとりの子どもへの支援はさすがで、誤答を言った子に改めて発言する機会を与えたり、ちょっと集中できなくなった子にあえて黒板の前で活躍する機会を与えたりするなど、日々の学級経営の根幹に触れるような思いもしました。そして、授業の中でのこのような取り組みの積み重ねが子どもと先生との信頼関係を築くベースとなり、よりよい学級作りにつながっていくのだと思いました。

連休で先生方も少しはリフレッシュすることができたでしょうか。どうしても公開前はやる事が多く、気が抜けないのが附属小です。ただ、「公開」だけを考えると、公開が終わると「公開ロス」になってしまうので、どうか肩の力を抜いて長いスパンで自分のペースを見付けて過ごして欲しいと願っています。どの学級も子どもたちの姿は明るく解放的で、真摯に授業作りに取り組む先生方の姿には本当に頭が下がります。

爽やかな日が続きます。今週も子どもたちに負けない元気で過ごしていきましょう。

(文責：副校長 手代木)